発酵・熟成がじっくりすすむ２次発酵に３カ月間かけてつくられます。その特徴は、①１次発酵初期に 70～80 ℃の高温発酵をするため、衛生細菌や雑草種子が死滅して、安全で使いやすい堆肥になること（下の写真）、②よく分解がすすんで窒素含量は２％くらい（乾物に占める割合）と、家畜糞尿などに比べてグッと少なめであること、③そのかわりにふかふかとして孔隙（すき間）が多く土の通気と水持ちをよくする効果の高い堆肥になること、④製造工程を通じて次々と微生物が活発に働くため、土の生物相を豊かにする堆肥になっていること、です。

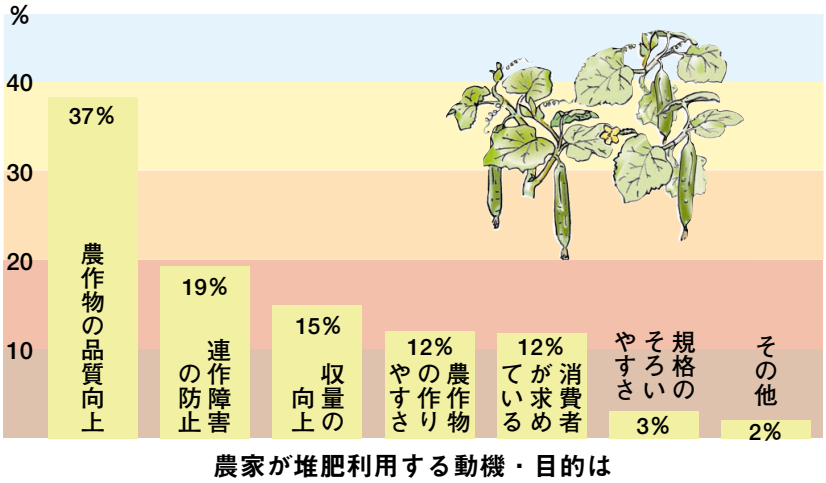
「堆肥は肥料効果より水はけをよくするため」に使う

■ 堆肥に品質向上効果を期待します

このような堆肥を使って高品質で健康なキュウリづくりを実現している和田さんは、「堆肥には肥料効果は期待しません」といいます。そのかわりに、土が硬くならないこと、雨が降ったあと水の抜けがよいこと、を重視します。これが元気な根が伸びて養分をバランスよく吸収して、健康なキュウリが育つ第一条件だからです。

堆肥使用の目的についての農家アンケートの結果をみると、下の図のように農作物の品質向上がもっとも多く、次に連作障害の防止、収量の向上、農作物の作りやすさを挙げています。消費者が有機農産物を求めているからという回答も多く見られます。

つまり、和田さんの例のように、高品質で健康な農作物を育てて消費者とつながること―これが、今日堆肥を使う最大の目的です。そしていま全国各地で、地域の資源を活かして、高品質で健康な野菜生産を支える堆肥づくりとその活用の取り組みがすすんでいます。



農家が堆肥利用する動機・目的は

堆肥を提供する國分農場。一気に80 ℃まで発酵温度を上げて良質堆肥づくりをスタート